

決算行政監視委員会で質疑=チベット問題、国連改革、ODA、大使館問題

決算行政監視委員会において、外務大臣等に質問をし、チベット問題、国連改革の見通し、ODAの効率化、大使館の増置方針などについて議論しました。その中から、国連改革とODAに関する質疑・応答の概要を報告致します。

国連改革の見通し

蘭浦 我が国の国連分担金は、07年からは16.6%ぐらいで少し分担率が減ったが、06年までは20%近く負担していた。国連分担金は国民の税金だ。高分担国の我が国の立場が国連の中でどうなのか。第二次大戦の敗戦国を規定したいわゆる旧敵国条項というものが未だに残っている。死文化したとは言え、批准の手続は各国でやり、更に総会でも必要。旧敵国条項削除の具体的な見通しは立っているのか。

高村大臣 国連憲章が次に改正される時は削除されるということに殆どの国のコンセンサスが得られている。余りこの敵国条項を削除せよということだけ強く言うと、そこだけでいいんだと誤解されてしまう恐れがある。我々が国連憲章を改正するときは、もっと大きな改革をなし遂げるときに、改正に結び付けたい。

蘭浦 安保理改革の話だが、51カ国でスタートした国連は、今190カ国を超えた。安全保障理事会の構成国は、最初は51カ国の中で11カ国、率にして5分の1以上。190カ国にもなったにもかかわらず、非常任も含めて今の構成国は15カ国。やはり安全保障理事会のあり方も考えていくべきだ。我が国が継続的に取り組んでいることは承知しているが、具体的に安保理改革が今どういう状況にあり、我が国がどこと組んでどういう話し、今後、タイムスケジュールも含めてどういう見通しを持っているのか。

高村大臣 国際社会が21世紀の課題に効果的に対処する上で、安保理改革は、引き続き、国際社会の喫緊の課題であり、その実現に向けた試みは続いている。我が国としても、早期実現及び常任理事国入りを目指す考えであり、G4各国を含む主要国を初め各国と検討を進めるとともに、国連での議論にも積極的に参加していく。今国連総会中にも、何か動くところがあれば動かそうと一生懸命やっている。

蘭浦 出来るだけ早く願っている。国連の職員の話だが、例えば、国際標準を決めるような委員会や世界への影響が大きい委員会に、いろいろな国が組織的に国連の職員を増やして人を送り込み、影響力を強めている。我が国も、人を養成して、職員をもっと送り込んで、発言力を強めるような作業がこれから必要だと思うが、外務省の考えを伺う。

宇野外務大臣政務官 国連機関で働いている専門職以上の邦人職員数は、平成19年1月時点で676名。平成14年の521名から、5年間で約3割増加をしている。従来から国際機関における邦人職員増強の重要性を認識しており、将来、国際機関での勤務を希望する35歳以下の若手邦人を対象に、国費で国際機関への就職に必要な経験を積んでもらうジュニア・プロフェッショナル・オフィサー（JPO）という制度がある。これまでの国際機関への邦人職員の派遣人数は、本制度が始まってから1223人だ。平成20年度予算は、12億1千万円、新規派遣予定人数は42名。諸外国の状況は、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン等が、我が国と同様に政府の費用負担で自国民を国際機関に派遣する制度を有している。今後も、派遣制度を初め、国際機関就職に係る各種情報の周知、広報等必要な支援措置を積極的に行う。

ODAの効率化

蘭浦 次に、ODA改革についてだが、去年、自民党総合政策研究所というところで中国を訪れ、内陸部の銀川という都市にも行った。そこでは、ODAで技術協力をして緑化事業を行っており、貯水池などの灌漑設備の整備や植林の木を提供するのも円借款で行っている。そこに植林記念館がある。その中に一步入ると、鄧小平さんや江沢民さんなど中国の主席経験者の肖像が4人並んでいて、ジャパンのJの字はどこにもない。「この事業は円借款で行っているのに、この肖像はどうしてだ」と聞いた。すると、「灌漑と植林は日本のお金だが、この建物は中国のお金で建てた。だから日本の字は無い」というのが彼らの答えだった。これでは、円借款で作られたとは分からない、日本国民の税金が使われているのだという話をした。彼らは、「外の貯水池にその記念プレートがある」と言う。ところが、貯水池に行くと、どこを見てもプレートが無い。「プレートはどこにあるのだ」と聞くと、「今は貯水池に水を貯めているので水没していて見えない」と。抗議をしたら、1カ月位経って写真が届いた。今度は貯水池の上の方に、円借款でやった事業ですよと分かるように書いている。国民の税金を使って、これではODAの意味が余り無い。現地の人達が、「これは日本の支援だよ」というのが分かるように、きちんとチェックする必要がある。そのチェック体制は、どこがやっていて、最終的にどこが責任を持って、大臣にはどういった形の報告が上がってきているのか。

外務省 日本の援助で作ったプロジェクトに、例えば日の丸とかODAマークを付けることは、大使館とかJICA、JBICの駐在事務所など、現地の方をお願いをしている。現地サイドでの働き掛けが中心だ。

園浦 きちっとやるべきだ。働き掛けるというレベルだけではなく、措置をきちっとするべきだと思うが。

高村大臣 ODAというのは、日本の国民の税金でやる、相手国民に喜んでもらう、喜んでもらったそのことが我が国の援助で出来たということも知ってもらおう。その結果、我が国の外交を展開する上にも役に立つ。そのことがまた日本国民によく知られる。そういうことで、ODAの理解が得られて、いい循環になっていくので、どこの国でも、その国の国民に知らせる努力というのは日本国政府自体でしていかなければいけない。相手国に要求していかなければいけない。知らせる努力をし、中国にかかわらず世界各国ともそれなりに努力をしてくれているが、まだまだ不十分なところがあるので、気が付いたら指摘して欲しい。

園浦 チェックをして最終的に確認をするのは、現地の大使館なのかJICAなりJBICなのか非常に曖昧だ。大臣のリーダーシップで、最終的に責任を持つところを決めて、これから進めていただきたい。

高村大臣 基本的に共同責任だ。出来ていなかったら両方が責任を感じる。共同責任は無責任じゃなくて、あくまで共同の責任だ、こういうことでやってもらいたい。

園浦 ODAの予算が限られており、アフリカの小学校を作るときに、現地発注を入れて単価を下げようという制度を一昨年度から始めた。具体的に、このぐらいのコストが削減出来たという数字は、示せるか。

宇野外務大臣政務官 途上国におけるコミュニティーの総合的能力開発の支援を目的とするとともに、現地仕様の設計、施工段階における現地業者の活用によるコスト削減を目指して、平成18年度から導入したのがコミュニティー開発支援無償制度だが、平成19年2月に公表した「ODAの点検と改善2006」において、学校建設案件については、平成19年度から23年度までの5年間の平均で30%以上のコスト削減を目指すとした。ちなみに、19年度の学校建設案件においては、削減目標を達成出来る見込みだ。

園浦 「一番儲けているのは日本のコンサルじゃないか」という話を良く聞く。30%以上削減出来るということは、逆に言えば、今まで問題があったということではないか。このコスト削減をぜひ各地でやるべきだ。5年間でこれをやってみて、うまくいったらその先やるうじゃなくて、今年、来年、出来るところから、前倒しをして体制を広げるべきだ。

宇野外務大臣政務官 平成19年度においては10件以上の案件の実施を目指すということを先ほどの「点検と改善」において言っている。19年度においては目標案件数を上回る12件の実施決定を行った。この内訳は、アフリカ地域8件、アジア地域2件、中南米地域2件だ。この制度については、他の地域の援助についても応えていくつもりだ。

事務所からのお知らせ!!

そのうら健太郎/東部地区後援会、市川駅南地区後援会誕生！

そのうら健太郎の後援会が各地区で誕生しています。4月20日に**東部地区後援会**(主に北方、本北方)、5月11日に**市川駅南地区後援会**(主に市川南、新田、大洲)でそれぞれ設立総会を開催されました。各後援会へのご加入をお待ちしております。(ご入会いただけます方は、事務所までご連絡をお願い致します。)

「そのうら健太郎と語る会」開催のご案内

「そのうら健太郎と語る会」が次のとおり開催され、各々の地域で地区後援会が誕生する予定です(信篤地区後援会は誕生済です。)。皆様のご出席をお待ちしています。

平田地区	5月24日(土) 受付開始15:30	開会16:00	平田自治会集会所 (市川市平田1-17-10)
信篤地区	6月28日(土) 受付開始18:00	開会18:30	信篤公民館 3階 (市川市高谷1-8-1)
南行徳地区	6月29日(日) 受付開始15:30	開会16:00	行徳公民館 3階 (市川市末広1-1-31)



衆議院議員

そのうらけんたろう
園浦 健太郎

事務所

地元事務所 〒272-0021 千葉県市川市八幡2-16-20-203

☎047-318-1001 Fax047-336-8801

国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館211号室

☎03-3508-7701 Fax03-3508-3451

E-mail sonoura@au.wakwak.com ホームページ <http://www.sonoken.org>

ホームページも、ぜひご覧下さい。活動日記を連日、更新しています。